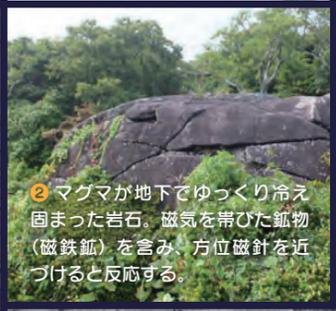




須佐湾ジオクルージング
 イカ釣り漁船に乗って海からしか見られない迫力の絶景を巡ります。
 【所要時間】60分【料金】大人1,800円/小学生以下900円
 【運行日】GW、夏休み期間の土日祝日は定期便を運行。それ以外は要予約（5名以上）。
 【申込・問合せ】(一社)須佐おもてなし協会 (tel: 08387-6-2266)



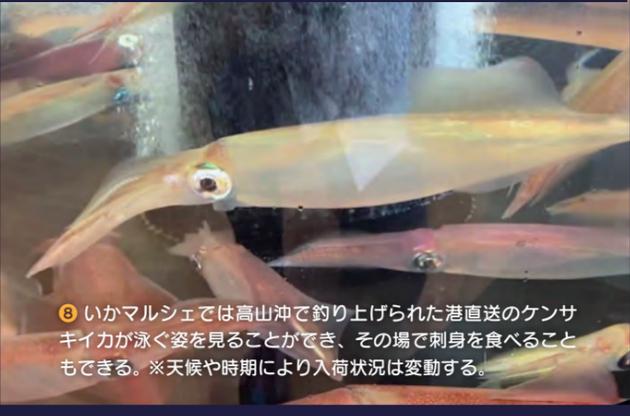
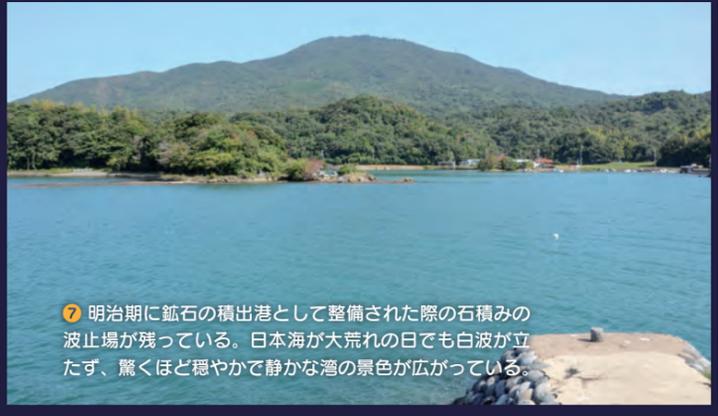
① 約1,500万年前の海底に砂と泥が交互に堆積してできた地層。足もとの平らな面をよく見ると、二枚貝や生物の巣穴の化石が見られ、ここが確かに海の底だったことがわかる。

② マグマが地下でゆっくり冷え固まった岩石。磁気を帯びた鉱物(磁鉄鉱)を含み、方位磁針を近づけると反応する。
 ③ 約1,500万年前の地層から見つかった、日本では珍しいウミガメの化石が展示されている。



⑤ 須佐湾ジオクルージングでは海からしか見られない景色が見られる。高さ約80mの白い崖にいくつも見られる垂直方向の黒い帯は地層を貫いたマグマの通り道。

⑥ 標高約520mから、谷が水没してできた「おぼれ谷」である須佐湾の入り組んだ地形を一望できる。天候によっては60km以上離れた川尻岬(長門市)まで見渡すことができ、古くから高山が海上交通の目印であったことが実感できる。



⑦ 明治期に鉱石の積出港として整備された際の石積み波止場が残っている。日本海が大荒れの日でも白波が立たず、驚くほど穏やかで静かな湾の景色が広がっている。

⑧ いかマルシェでは高山沖で釣り上げられた港直送のケンサキイカが泳ぐ姿を見ることができ、その場で刺身を食べることもできる。※天候や時期により入荷状況は変動する。

海中から隆起してできた高い山

まだ恐竜がいた頃、日本海は存在せず日本列島はユーラシア大陸の一部でした。それが今から約2,000万から1,500万年前の時代に、大陸の端に裂け目ができて広がり、海水が流れ込んで日本海が誕生しました。この頃の日本海は、海底火山がそこかしこで噴火する激しい海でした。
 高山は、海底火山の地下数kmにあったマグマだまりが上昇して、標高530m以上の山となったものです。高山のすそ野では、一緒に海底から押し上げられたれき岩層や砂泥互層(①)などの海の地層が見られ、山頂ではマグマが冷え固まったはんれい岩^{※1}(②)に触ることができます。

日本海の記憶を語るシマシマの地層

高山周辺の大地をつくっているシマシマの地層の中には、日本海が誕生した頃の様子が記録されています。地層の中からは貝化石やウミガメ化石(③)、生物の巣穴の化石(④)などが見つかると、多くの生き物たちが住む豊かな海だったことがわかります。
 また、地層を垂直につらぬいたマグマの通り道(⑤)がいくつも見られ、地下でマグマが活発に活動して海底火山の噴火を起こしていたこともうかがえます。マグマにつらめかれた地層は熱によってガラス質の固い岩石「ホルンフェルス(熱変成岩)」に変化しています。

隆起したマグマを支えるイカの産地

マグマが隆起することによって、山と合わせて複雑な地形の入り江(須佐湾^{※2}、江崎湾)もできました(⑥)。その地形のおかげで冬でも波が穏やかな良い港(⑦)として古くから港町の発展を支えています。
 また、高山のはんれい岩は海の中にも続いており、北東部の海底には岩礁地帯が広がっています。そこには海藻が繁茂し、魚介類のすみかや産卵場所になっています。良い漁場と港が近い距離にあることで、鮮度の高い海の幸を得ることができます。特に一本釣りで生きたまま水揚げするケンサキイカ(⑧)が有名で、夏の夜に海を眺めると漁火を見ることができます。

※1「須佐高山の磁石石」として国の天然記念物に指定されています。
 ※2「須佐湾」として国の名勝及び天然記念物に指定されています。